

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 「る・らる」の用法を答えよ。

親に叱らる。

Q2. 用法を答えよ。

上、仰せらる。

Q3. 用法を答えよ。

字、読まれず。

Q4. 用法を答えよ。

故郷を思へば、そぞろにぞ泣かるる。

Q5. 用法を答えよ。

帝、御文を書かせたまふ。

Q6. 用法を答えよ。

道にて、犬に吠えらる。

Q7. 用法を答えよ。

大臣、はや寝らる。

Q8. 用法を答えよ。

暗くて、人に見られず。

Q9. 用法を答えよ。

亡き人を思ひ出でらる。

Q10. 用法を答えよ。

世のはかなさを思ふに、いとど嘆かる。

Q11. 用法を答えよ。

風に飛ばさる。

Q12. 用法を答えよ。

院、御幸したまふ。

Q13. 用法を答えよ。

心定まらずして、なほ書かれず。

Q14. 用法を答えよ。

故郷を偲ばる。

Q15. 用法を答えよ。

大臣、使ひを立てらる。

Q16. 用法を答えよ。

人に心の内を見あらはさる。

Q17. 用法を答えよ。

大納言、京を出でらる。

Q18. 用法を答えよ。

ほととぎすの声、待たる。

Q19. 用法を答えよ。

物恐ろしくて、寝（い）も寝（ね）られず。

Q20. 用法を答えよ。

雷に打たる。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 用法を答えよ。

人に笑はる。

Q22. 用法を答えよ。

大納言、文を書きて、かの人のもとへ遣らる。

Q23. 用法を答えよ。

足の痛ければ、歩まれず。

Q24. 用法を答えよ。

昔のこと、ふと思ひ出でらる。

Q25. 用法を答えよ。

人に袖をひかる。

Q26. 用法を答えよ。

上、いみじう涙落とさせたまふ。

Q27. 用法を答えよ。

心細さに、故郷を離れしこと、いまさら悔いらる。

Q28. 用法を答えよ。

風の音にも驚かる。

Q29. 用法を答えよ。

賊に縛らる。

Q30. 用法を答えよ。

中宮、いみじう笑はせ給ふ。

Q31. 用法を答えよ。

暮るるに、家に帰られず。

Q32. 用法を答えよ。

上、御簾の中より見らる。

Q33. 用法を答えよ。

あはれと感ぜらる。

Q34. 用法を答えよ。

親に許されぬ恋。

Q35. 用法を答えよ。

散りゆく花は、いとど惜しまる。

Q36. 用法を答えよ。

上、内裏より出でらる。

Q37. 用法を答えよ。

鬼に追はれぬ。

Q38. 用法を答えよ。

旅なる子の身の上、明け暮れ案ぜらる。

Q39. 用法を答えよ。

人に、いみじうそしらる。

Q40. 用法を答えよ。

胸つぶれて、湯水も飲まれず。

Q41. 用法を答えよ。

大臣、人に御文を読ませたまふ。

Q42. 用法を答えよ。

夜、物の怪に襲はる。

Q43. 用法を答えよ。

幼き子の遊ぶさまを見て、ひとりほほゑまる。

Q44. 用法を答えよ。

院、古き歌どもを集めらる。

Q45. 用法を答えよ。

かの女御、人々に妬まる。

Q46. 用法を答えよ。

風の冷たさに、わが袖の薄さ思ひ知らる。

Q47. 用法を答えよ。

盗人に衣を取らる。

Q48. 用法を答えよ。

院、御琴を弾かせ給ふ。

Q49. 用法を答えよ。

暁の鳥の声に、来し方のこと思ひ続けらる。

Q50. 用法を答えよ。

何ともいはれず。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

Q51. 用法を答えよ。

我が宿の梅、知る人に折らる。

Q52. 用法を答えよ。

身の憂さの嘆かるるを、人に知らるまじ。

Q53. 用法を答えよ。

心強く思へど、悲しさに堪へられず。

Q54. 用法を答えよ。

中宮、女房に御簾を上げさせたまふ。

Q55. 用法を答えよ。

大臣、院の御所より帰らる。

Q56. 用法を答えよ。

鳥獸に恐れらる。

Q57. 用法を答えよ。

家のつくりやうは、夏をむねとすべし。冬は、いかなる所にも住まる。(徒然草)

Q58. 用法を答えよ。

故院の御事、忘れがたく思ひ出でらる。

Q59. 用法を答えよ。

帝、いみじう興ぜさせ給ふ。

Q60. 用法を答えよ。

敵に矢を射らる。

Q61. 用法を答えよ。

大将こそ、人々を召して、かくは言はるれ。

Q62. 用法を答えよ。

夢に見しこと、今ぞ思ひ合はせらるる。

Q63. 用法を答えよ。

嵐に倒さる。

Q64. 用法を答えよ。

心に思ふことの、言ひ出でられぬぞ口惜しき。

Q65. 用法を答えよ。

大臣、御文をいつしか書かれたり。

Q66. 用法を答えよ。

月見れば、いとど昔思はる。

Q67. 用法を答えよ。

かの大納言、いづれの船にか乗らるべき。(大鏡)

Q68. 用法を答えよ。

親に責めらる。

Q69. 用法を答えよ。

山深きにて、人にも逢はれず。

Q70. 用法を答えよ。

大臣、人々の位を定めらる。

Q71. 用法を答えよ。

故里の偲ばるるを、人に語る。

Q72. 用法を答えよ。

大納言の詠まるる歌は、いとをかし。

Q73. 用法を答えよ。

笠もなくて、雨に降り籠められぬ。

Q74. 用法を答えよ。

我が身のほど、思ひ知らる。

Q75. 用法を答えよ。

こなたへ近く参られず。

Q76. 用法を答えよ。

大宮、御文をしたためらる。

Q77. 用法を答えよ。

秋の夕暮れは、すずろに物思はる。

Q78. 用法を答えよ。

敵に馬より落とさる。

Q79. 用法を答えよ。

院、御けしき改めらる。

Q80. 用法を答えよ。

遠き国にある人の上、いとほしく思ひやらる。

【第4部】入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 用法を答えよ。

帝、かの人的心ばへを、ことにあはれと思さる。

Q82. 用法を答えよ。

山風に紅葉散らさる。

Q83. 用法を答えよ。

院、故宮の御ことども、いとあはれに思し出でらる。

Q84. 用法を答えよ。

その翁、歌よく詠むとて、院に召し出ださる。

Q85. 用法を答えよ。

中納言、御簾を上げて、月を見らる。

Q86. 用法を答えよ。

雪深き道、行かれず。

Q87. 用法を答えよ。

歌の道にすぐれたれば、世に重く用みらる。

Q88. 用法を答えよ。

大将、故院の御ことを思して、うち泣かれ給ふ。

Q89. 用法を答えよ。

中將、御文を持ち参らる。

Q90. 用法を答えよ。

病重く、起き上がられず。

Q91. 用法を答えよ。

ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。(枕草子)

Q92. 用法を答えよ。

心の闇に惑はる。

Q93. 用法を答えよ。

大臣、このよしを奏せらる。

Q94. 用法を答えよ。

秋風の身にしむにつけても、都のみぞ恋しく思はるる。

Q95. 用法を答えよ。

罪に問はる。

Q96. 用法を答えよ。

大将、御車より下（お）りられぬれば、人々みなかしこまる。

Q97. 用法を答えよ。

いはむかたなく心細ければ、来ぬ人のみ恨みらる。

Q98. 用法を答えよ。

大納言、世をはかなく思ひて、出家せらる。

Q99. 用法を答えよ。

心安く眠られず、夜もすがら泣き明かさる。

Q100. 用法を答えよ。

月の出でぬるに、ふと空ぞながめらるる。